

北方領土問題に係る若年層への効果的な啓発の 施策検討に関する調査結果のポイント



令和2年6月

独立行政法人北方領土問題対策協会





調査概要

協会や北方領土返還要求運動の関係団体等が、北方領土問題に係る国民一般への啓発事業を展開する上で大きな課題となっている、「**北方領土返還要求運動の裾野の拡大**」を調査テーマに設定し、今後の返還要求運動の担い手となる**若年層への効果的な啓発方法の施策を検討**するための調査を行いました。

◆調査方法

- ①インターネット調査
- ②グループインタビュー調査

◆調査対象者

- ①日本国籍を有する18歳から39歳までの男女800名
- ②日本国籍を有する首都圏在住の大学生6名および就業者6名の計12名の男女

◆調査項目

- ・若年層の生活スタイル（※インターネット調査のみ）
- ・北方領土問題に対する関心度やイメージ



インターネット調査結果概要①

～若年層の生活スタイル～

- ◆情報収集は**ウェブサイト**と**SNS**が中心(図1)
- ◆休日は**家で過ごす**ことが多い(図2)
- ◆ボランティア活動には**興味あり**(図3)



- ◆**インターネット**からの情報発信強化が重要！
- ◆家でも**手軽にできる**活動の提供が大切！
- ◆条件次第では、**新たな協力者**となる可能性大！

図1 普段よく使う情報媒体

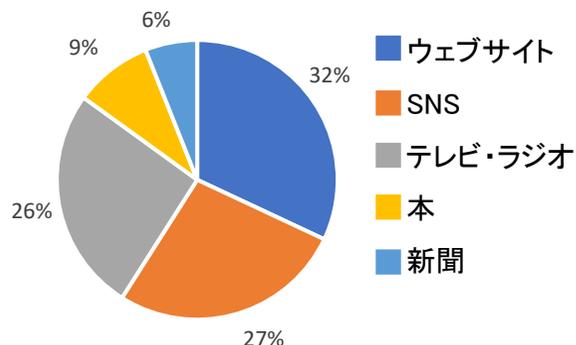


図2 主な休日の過ごし方

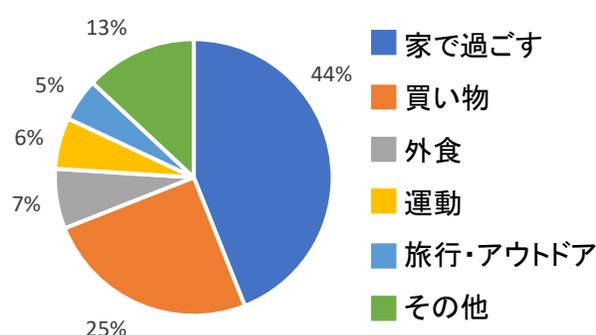
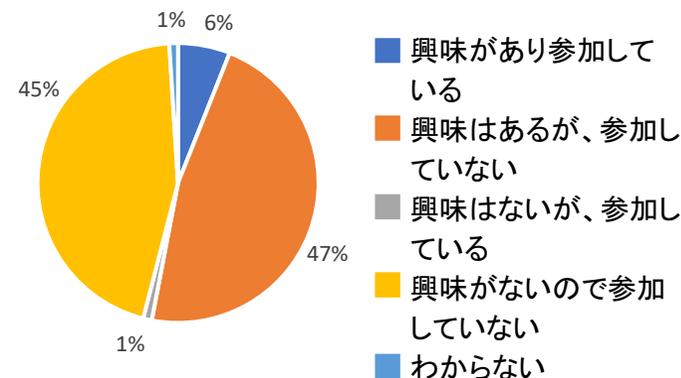


図3 ボランティア活動への興味





インターネット調査結果概要②

～北方領土問題に対する関心度やイメージ(1/2)～

- ◆ 北方領土を知ったきっかけは**学校の授業**が多数(図4)
- ◆ 返還要求運動を知っている者はごく少数(図5)



- ◆ 学校の授業による**効果は絶大！引き続き継続を！**
- ◆ 返還要求運動をみんなに**知ってもらうことが大切！**
- ◆ 活動内容は**どんどん発信！**

図4 北方領土や北方領土問題を知る主なきっかけ

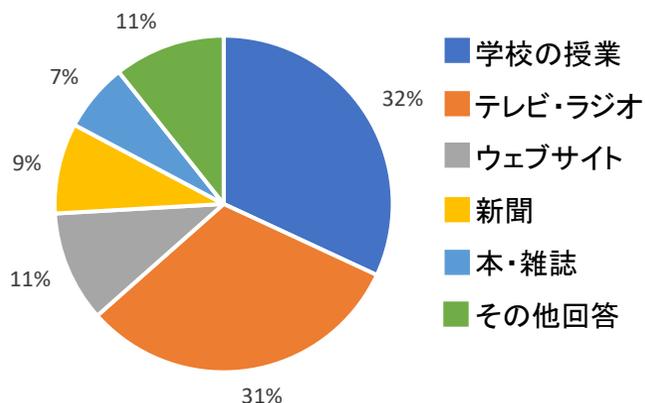
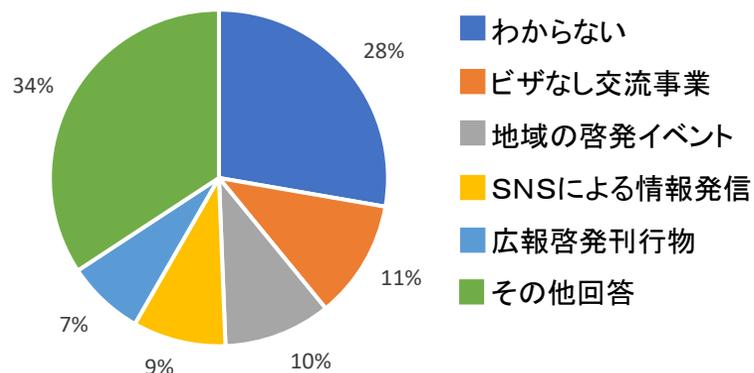


図5 見聞きしたことのある返還要求運動





インターネット調査結果概要③

～北方領土問題に対する関心度やイメージ(2/2)～

- ◆ **意義(やりがい)**のある運動に参加したい(図6)
- ◆ **手軽にできる**啓発活動なら参加したい(図7)
- ◆ 返還要求運動を続けることは**意味がある**(図8)



- ◆ 運動に参加したいと思える**きっかけの提供**を！
- ◆ 手軽に参加できる**インターネットの活用**を！
- ◆ 運動に参加したくなる**新たな方法**を考えることも大切！

図6 返還要求運動に参加しやすくするために必要な条件

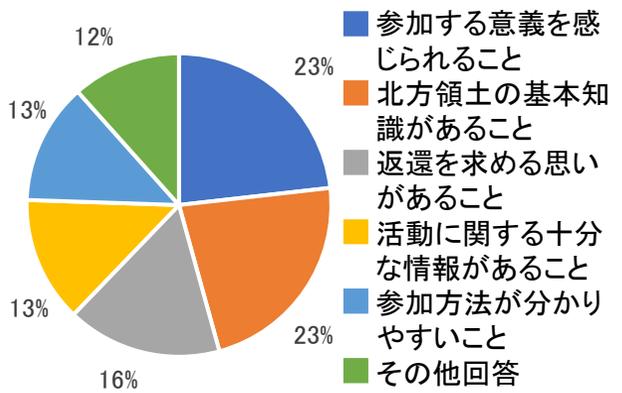


図7 参加してみたいと思う啓発活動

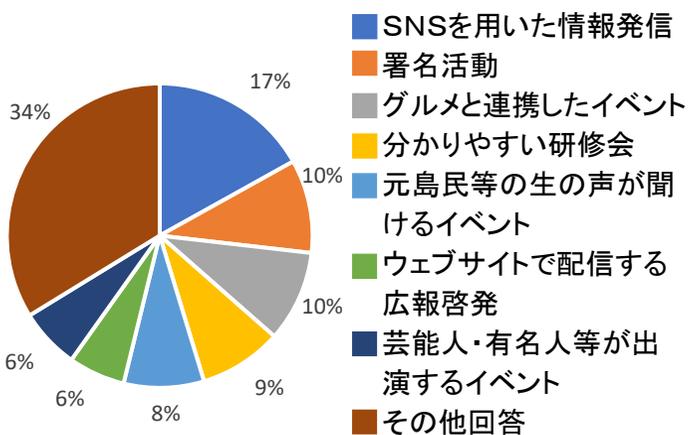
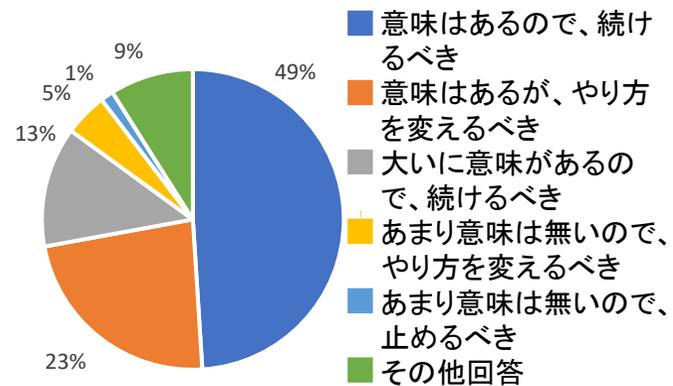


図8 返還要求運動を実施する意義について





グループインタビュー調査結果概要①

北方領土と聞いて思い浮かぶことは何か？に対する意見

両グループ共通

- ◆ **学校の授業**で習った程度のことしか覚えていない
- ◆ **ニュース**で時々見る程度

大学生グループ

- ◆ **YouTube**で**有名人**が解説している動画を見たことがあり、理解が深まった
- ◆ 北海道を舞台にした**マンガ**に出てきたことがある
- ◆ 小さい頃に羅臼展望台に行ったことがあり、国後島を**自分の目で見た**ことで考えるきっかけとなった。
- ◆ 北方領土だからこそ行きたいとは思わないが、**そこで得られる特別なもの(経験等)**があれば行ってみたい

就業者グループ

- ◆ 領土問題のイメージが強い
- ◆ 漁船が拿捕される事件など**危険なイメージ**があるので、行きたいとは思わない



グループインタビュー調査結果概要②

どうすればもっと北方領土問題に関心を持ってもらえるか？に対する意見

両グループ共通

- ◆ 自分の身の回りで**直接的に関係**があれば関心を持ちやすい
- ◆ **SNS**を活用して**より多く情報発信**をすれば、自然と目に留まりやすい

大学生グループ

- ◆ **YouTube**などで**有名人**が取り上げてくれたら関心を持ちやすい
- ◆ **Twitter**の**トレンド**などに出てくると、興味が無いテーマでも目に留まりやすい

就業者グループ

- ◆ **直接的な体験**をすることによって、「**自分ごと**」として捉えてもらうこと
- ◆ 引き揚げ者など元島民との交流を持たせる**機会を増やす**こと



グループインタビュー調査結果概要③

どうすれば返還要求運動に参加しやすくなるか？に対する意見

両グループ共通

- ◆ 強い**政治的なイメージ**が取り除かれること
- ◆ 友人など、誰かから誘いがあれば行くと思う

大学生グループ

- ◆ **有名人**の呼び掛けなどがあれば参加しやすい

就業者グループ

- ◆ 政府など、確実に**信頼できる団体**が主催しているイベントなら参加しやすい
- ◆ あまり基礎知識が無いような**未経験者**でも受け入れてくれるような**環境**であること



調査結果から得られたポイント

得られたポイント①

北方領土や北方領土問題を知るきっかけとして、「**学校の授業**」が最も多く挙げられており、大学生から就業者までの幅広い世代で印象に残っています。「**学校の授業**」の効果が**非常に大きい**ことが分かりました。

得られたポイント②

「自分が実際に見聞きしたことがあること」や「自分が関わることに意味があると思えるようなこと」であれば、関心度は高くなる傾向にあります。**自分の身の回りで体験できる機会に参加することが「自分ごと」として捉えるきっかけに繋がると考えられます。**

得られたポイント③

「休日は家で過ごす」、「実際に活動はしていないが**ボランティア活動に興味はある**」、「**インターネット(ウェブサイト・SNS)**を利用する」割合が高い傾向にあります。新しい運動のあり方を求める意見もあることから、**家でも手軽にできるような啓発活動**も今後有効になると考えられます。